

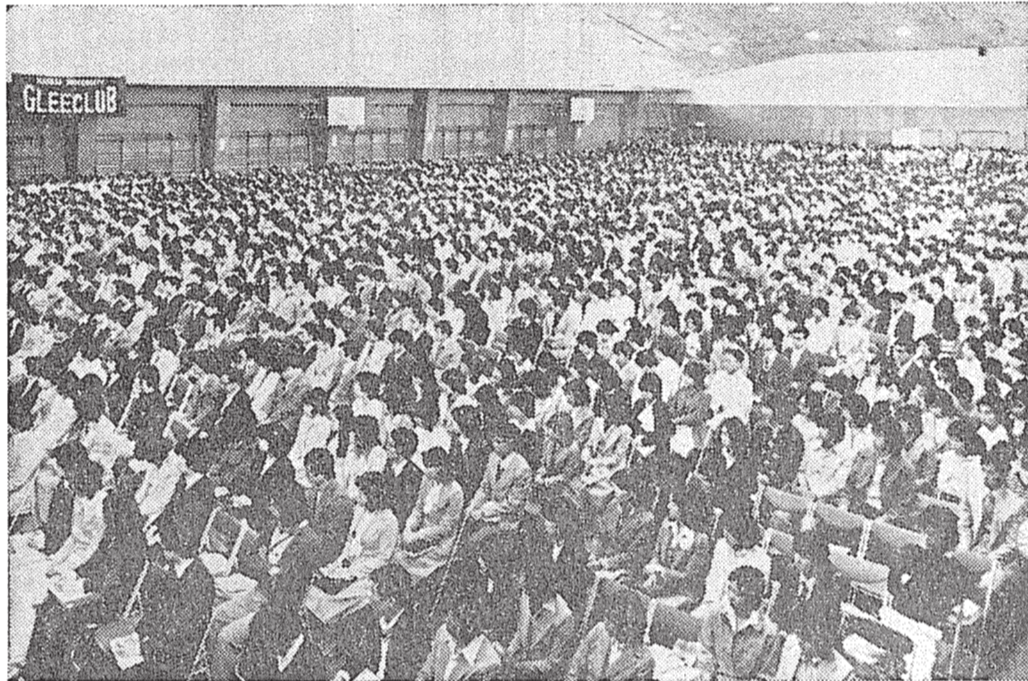
第90号 広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

晴れの卒業式

昭和53年度



新学士4641名誕生

大学院も学位授与式

名、計一九三名である。また、博士課程後期課程単位修得者は法学二名、文学一名、経済学四名、商学一名、社会学四名、工学三名、計二十四名である。また、博士課程後期課程・博士課程修了者は工学の二名である。

今回の卒業生諸君が入学した昭和五十年は本学創立九十周年の記念すべき年であった。学部第一部においてはこの年から学費が改訂された。しかし、その後本日の卒業式にいたる四年間の学園は、学費値上げに直面するどころか、学内は概ね平和であって、学生諸君は学問、研究に、またクラブ活動、スポーツ等に親しんで自由な学生生活を送られたことは大きな収穫である。しかし、その間には昭和五十二年の当初に「地名総論」問題が起り、責任を追及して全学説明会開催を要求する声が高まり、ついに「文書購入に関する報告説明会」が二度にわたって開かれた。大学は部室問題に対する取り組みを更に強化・充実させるために、「部室問題委員会規程」を制定して、昨年四月一日は、同規程を施行した。

教育研究施設の整備の主なものとしては、昭和五十一年八月「工学部共同化学実験場」が完成し、実験排水の有毒物質の集中処理が可能になった。また、昭和五十二年度は大型電子計算機「FACOM 330-3」が導入され、また電子計算機室の増設が行われた。また体育館の南側には第四ラウンドの造成・整備が現在着々と進行中であり、その完成が待たれている。



四年間の出来事

昭和五十三年度卒業式は三月二十四日(土)千里山学舎において午前十時から、商・工・午後一時から法・文・社(三回に分けて)挙行された。また同日午後五時三十分から学舎において第二部の卒業式が挙行された。

今回新卒となる者は法学部八四・六四二名である。

また、三月二十七日(火)に大学院博士課程前期課程・修士課程修了者、博士課程後期課程単位修得者および博士課程後期課程博士課程修了者に対してそれぞれ博士記の授与式が行われた。修士記を授与される者は法学一六名、文学三九名、経済学三名、商学三名、社会学〇名、工学二三名、計六九名である。

また、三月二十七日(火)に大学院博士課程前期課程・修士課程修了者、博士課程後期課程単位修得者および博士課程後期課程博士課程修了者に対してそれぞれ博士記の授与式が行われた。修士記を授与される者は法学一六名、文学三九名、経済学三名、商学三名、社会学〇名、工学二三名、計六九名である。

卒業生諸君に贈る

学長 中義勝



自己否定から創造へ

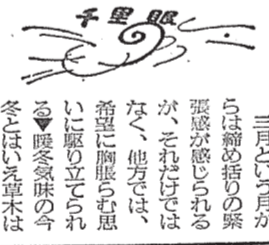
大学院前の若生の上に皆師匠一先生の胸像を飾るべきである。これは、若生先生の「自己否定」の精神を、その名を知らぬ諸君も多量に受け継いでいる。先生は本学の偉大な先輩であり、戦後初めて行われた学内公選による学長となられた。その後の数年にわたって学長に任せられた方であり、先生が第一期の学長の任期を終った後、昭和二十五年の夏、休養中、在任中の三十九年を回顧して「学報三三」に次のように述べておられます。

「過去は確定的な態であり、未来は可能性の態である。これは、自己否定の精神を、その名を知らぬ諸君も多量に受け継いでいる。先生は本学の偉大な先輩であり、戦後初めて行われた学内公選による学長となられた。その後の数年にわたって学長に任せられた方であり、先生が第一期の学長の任期を終った後、昭和二十五年の夏、休養中、在任中の三十九年を回顧して「学報三三」に次のように述べておられます。

「過去は確定的な態であり、未来は可能性の態である。これは、自己否定の精神を、その名を知らぬ諸君も多量に受け継いでいる。先生は本学の偉大な先輩であり、戦後初めて行われた学内公選による学長となられた。その後の数年にわたって学長に任せられた方であり、先生が第一期の学長の任期を終った後、昭和二十五年の夏、休養中、在任中の三十九年を回顧して「学報三三」に次のように述べておられます。

「過去は確定的な態であり、未来は可能性の態である。これは、自己否定の精神を、その名を知らぬ諸君も多量に受け継いでいる。先生は本学の偉大な先輩であり、戦後初めて行われた学内公選による学長となられた。その後の数年にわたって学長に任せられた方であり、先生が第一期の学長の任期を終った後、昭和二十五年の夏、休養中、在任中の三十九年を回顧して「学報三三」に次のように述べておられます。

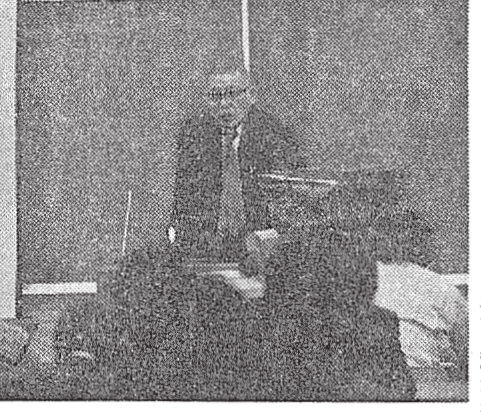
「過去は確定的な態であり、未来は可能性の態である。これは、自己否定の精神を、その名を知らぬ諸君も多量に受け継いでいる。先生は本学の偉大な先輩であり、戦後初めて行われた学内公選による学長となられた。その後の数年にわたって学長に任せられた方であり、先生が第一期の学長の任期を終った後、昭和二十五年の夏、休養中、在任中の三十九年を回顧して「学報三三」に次のように述べておられます。



三月という月からは締め括りの緊張感が感じられるが、それだけではなく、他方では、希望に胸躍らるるに駆り立てられる。冬は寒い草花は長い冬眠から目覚めて、柔らかな春の陽光を全身で吸収し、新たな世界に旅立とうとする。三月の草花、土筆(くし)、蒲公英(たんぽぽ)などから連想するのは、地中でじゅんじゅん蓄えられた力を結集させて、ついに芽をのぞかす生命力である。事業の世界では、この月が決算シーズンのである。官公庁がそうだし、民間でも、三月末日をもって決算日とする企業が多い。決算とは、厳格な計算に基づき、一定期間の活動成果を当該期末の状態を明らかにし、その日を見返すという回顧的行動が強く感じられる。しかし、その意味を少し深く味わえば、回顧だけでは、積もり積もった経験をもとに、自己の力を冷静に見定め、無限の広がりをもつ未来に向かう。今までも羽ばたかんとする姿が想像できるかのような響きが伝わってくる。この意味で、卒業は決算に類似している。1111の組織体を一人一人の個人に置き換えれば、それは人生の扉である。ある意味で、その扉の扱ひであり、未知なる世界の出現点である。経済学で安定成長が叫ばれている昨今、1111の三年の卒業生には安定志向が強い。それは学生生活は、不確実性に対する脆弱性で覆われていた人間としての心の奥底に潜んでいる。共通の思考パターンがもたらされた。しかし、貴重な財産がある。身の回りの整理を抜かして、学生から社会人へ気分一新、その若いエネルギーに燃焼する時を抑制を利かせ、またある時はそれを燃焼させて、雑草のようにたくましく、自分の人生を切り拓き、築いてほしい。

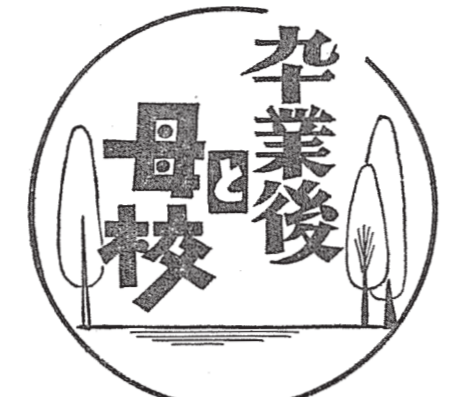
さようなら教壇

退職記念講演会



「研究生活をふりかえって」

高瀬孝夫教授
本学専任教授として30年、退職記念講演会を開催。高瀬教授は、本学で30年間の研究生活を振り返り、研究の重要性を説いた。高瀬教授は、本学で30年間の研究生活を振り返り、研究の重要性を説いた。



卒業後 母校

高瀬孝夫教授
本学専任教授として30年、退職記念講演会を開催。高瀬教授は、本学で30年間の研究生活を振り返り、研究の重要性を説いた。

校友会

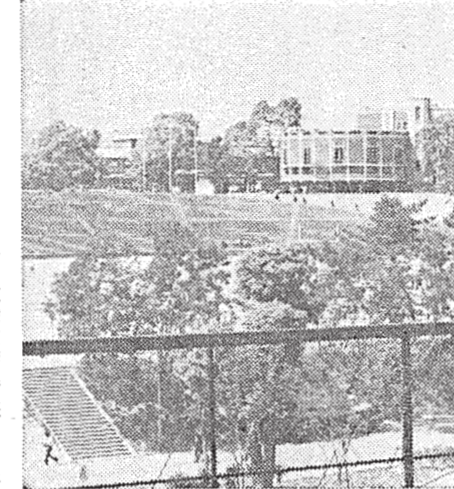
愛校心の絆で100周年を

清新な活力を校友会へ

校友会は、愛校心の絆で100周年を祝う。清新な活力を校友会へ。校友会は、愛校心の絆で100周年を祝う。清新な活力を校友会へ。

各種の研究會が諸君を待っています

- ### 学会研究会
- 日本育英会 (1年次から4年次まで奨学生であったときの標準例)
 - 大阪府育英会 (1年次から4年次まで奨学生であったときの標準例)



責任ある返還を

奨学金返還基準および最低年賦額表

返還総額	年賦額	返還総額	年賦額
150,000円	30,000円	50,000円以下	15,000円
150,100～300,000円	40,000円	50,100～80,000円	20,000円
300,100～450,000円	50,000円	80,100～110,000円	25,000円
450,100円以上	60,000円	110,100～140,000円	30,000円
		140,100～170,000円	35,000円
		170,100～200,000円	40,000円

公務員への志

公務員への志。公務員への志。公務員への志。公務員への志。公務員への志。

就職部

卒業後も就職あっ旋

就職部は、卒業後も就職あっ旋。就職部は、卒業後も就職あっ旋。就職部は、卒業後も就職あっ旋。

図書館

図書利用を

図書利用を。図書利用を。図書利用を。図書利用を。図書利用を。

国際人を夢みて

国際人を夢みて。国際人を夢みて。国際人を夢みて。国際人を夢みて。国際人を夢みて。

明日に向けて

明日に向けて。明日に向けて。明日に向けて。明日に向けて。明日に向けて。



仕事に生きがい

仕事に生きがい。仕事に生きがい。仕事に生きがい。仕事に生きがい。仕事に生きがい。

自信を持って新聞記者に

自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。

公認会計士試験に賭ける

公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。

卒業後就職あっ旋

卒業後就職あっ旋。卒業後就職あっ旋。卒業後就職あっ旋。卒業後就職あっ旋。卒業後就職あっ旋。

新しい住宅目指して

新しい住宅目指して。新しい住宅目指して。新しい住宅目指して。新しい住宅目指して。新しい住宅目指して。

公務員への志

公務員への志。公務員への志。公務員への志。公務員への志。公務員への志。

自信を持って新聞記者に

自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。自信を持って新聞記者に。

公認会計士試験に賭ける

公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。公認会計士試験に賭ける。

大学は変わりました

＜50音順＞

今年定年により御退職される先生方は、文学部の角田文雄教授(英文学)、道家忠道教授(史学・地理学)、福尾猛市郎教授(史学・地理学)、岡見正雄教授(国文学)、中村幸彦教授(国文学)、工学部の井本稔教授(応用化学)、高瀬孝夫教授(金属工学)の

うちの学生諸君よ 君達は素質があるのだ



工学部教授 井本 稔

君は一月の半ばに三年生の諸君に当時の終わりの講義をした。終わりの長い間学校の先生をしてきたが、教授として講義をするのはこれが最後だと言った。君は最後に「君は素質があるのだ」と言った。君は素質があるのだ。これは君が自分自身で得た成果を認めたことだ。君は素質があるのだ。これは君が自分自身で得た成果を認めたことだ。

思い出あれこれ



文学部教授 角田 文雄

天六学舎の教授に立ったのが昭和八年、それから昭和三十一年に千里山学舎に移って、この三月で満四十六年になります。ふり返れば、誠に夢のような年月です。広い講義、高い天井から降る球がまぶさる、マンモスな状況

平和を守る覚悟を



文学部教授 道家 忠道

今年、スチューデント・パワーの平和は、日本の近代史上列外的である。これは、また実感はない。しかし、これにかけり見直しをせよ。就職後は諸君の学生生活の最後を脅かす暗い陰はなかつたか。何よりも、今年になってからのイラン革命と中東戦争は、大戦争の危険が表裏現実に存在する。成行に

波乱の時代の中で



工学部教授 高瀬 孝夫

昭和四十二年関西大学にお世話になった十二年間、大学の皆様のあたたかい支援と、若い学生諸君とともに、健康で楽しい有意義な大学生活を送ることができました。退職され、木村教授は広島大学へ転出される。木村教授には、学部、大学院、学生部、広報委員会御苦労をいただいた。諸先生方の御健康を祈ります。

もつと能率的に



文学部教授 中村 幸彦

私は六十五歳の定年で、故郷茨城県へ退職すべく、住居を移した。種々の事情で今年まで遅びてしまった。この二方は、進歩的な通学(ラッシュ)で、会場の扉扉であった。これでは大げさな戸位を築き、更には感謝の意を、大学及び学生諸君に、お願いを一つ申し上げたい。我が関西大学は、官公立の如く官費が乏しく、伝統ある大学として、換言すれば存続を危ぶむべき状況にある。創立以来の風

昔と今



文学部教授 福尾猛市郎

昭和十一年九月、私は二十八歳の若年、関西大学非常勤講師を拝命し、予科の日本史を担当することになった。京大大学院に在学していたので、はじめての教職経験であった。それより五年間の非常勤期間に私の拙い講義を聞いて学んだ通学された方は十名以上いる。今思われる。その中には現在の中核幹部として活躍されている教授諸君も幾人かを数える。当時の関大は、規模は今よりも小さく、建物も少なかった。そして昭和四十七年

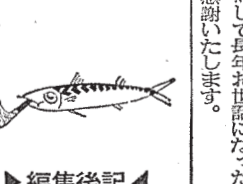
新刊紹介

法学部教授 高尾正男著 「人間の政治学」 (関西大学出版部 広報部 四〇〇〇円)

古典的政治学に傾倒してきた著者の業績がまとめて発表されたことを大いに歓迎したい。政治を哲学し、政治の理想を考へ、人間と政治との不可分な関係を沈思することが、やがて迫りくる二十一世紀の政治を、われわれ人間のものにするということも哲学するべきであらう。政治を哲学する意味と必要性については余論に留めたい。

現在、永年にわたるギリシャの歴史でもみんなの幸福の第一前提である平和を守る覚悟を忘れていた。平和がなければ個人の幸福はないのである。

（原 英次）



編集後記

今年には気象台開設以来の暖冬であった。三月に入り、寒の戻りもあつたが、もうそろそろ桜の季節も間近。共通一次テストの施行。太安富の離脱。長期に及んだ不況からの脱出の兆し。この時期に諸君は大学を去る。諸君の門出を祝いつつこの通信を届ける。

(松尾 徳次)

